



2020 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 6 戦: 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市) レース報告書

予選: 12 月 6 日 (日)

天候	晴れ
観客動員数	12,500 人
成績	牧野 任祐 選手 (#64): 16 位 大湯 都史樹 選手 (#65): 2 位

決勝: 12 月 6 日 (日)

天候	晴れ
観客動員数	12,500 人
成績	牧野 任祐 選手 (#64): 8 位 大湯 都史樹 選手 (#65): 1 位

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大幅なスケジュール変更を余儀なくされた 2020 シーズン。鈴鹿大会は、土曜日に第 5 戦 (予選・決勝)、日曜日に第 6 戦 (予選・決勝) がそれぞれワンデーで開催されます。また、今大会から走行安全性を確保するため、燃焼方式による加熱器でのタイヤの加温が認められています。

<公式予選>

昨日の第 5 戦に続き、鈴鹿サーキットは引き続き快晴に恵まれ、ドライコンディションで第 6 戦の公式予選が行われました。

まずは Q1、A グループで出走した牧野任祐選手 (64 号車) が 8 番手タイムで惜しくもノックアウトされました。一方、B グループで出走した大湯都史樹選手 (65 号車) はトップタイムで Q1 を突破、続く Q2 もトップと僅差の 2 番手の好タイムで Q3 進出を果たします。Q3 でも落ち着いたアタックを見せた大湯選手は、1 分 34 秒 624 で 2 番グリッドを獲得しました。

<決勝レース>

決勝レースは 30 周回で定刻 13 時 15 分にスタートを切ります。フロントローから出走した大湯選手はうまくスタートを決め、ポジションをキープします。3 周目にはコース上でクラッシュが発生し、車両回収のためセーフティカーが導入されます。レースは 7 周目に再開されますが、9 周目に入ったところで前走のマシンにアクシデントが発生し、大湯選手はトップに躍り出ます。翌周にピットイン、タイヤを交換し、3 番手でコースに復帰します。

大湯選手は、ピットイン (タイヤ交換義務) を終えていない 2 台のマシンを前に、後続のマシンも迫り来るなかで、落ち着いた走りを見せ、トップでチェッカーフラッグを受け、ルーキーながら初優勝を果たします。TCS NAKAJIMA RACING としては、Alex Palou (アレックス・パロウ) 選手による 2019 年シーズン第 4 戦 (富士スピードウェイ) 以来、約 1 年半ぶりの優勝となりました。

一方、牧野選手はスタートでポジションを落としますが、アクシデントで戦線を離脱するマシンもあり、14 番手までポジションを回復します。10 周目でピットインを行い、その後も少しずつ前走のマシンをオーバーテイクしつつ果敢な走りを見せ、8 位でフィニッシュ、3 ポイントを獲得しました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「大湯は今日に関しては言うことなしの内容でした。牧野は粘り強い走りを見せましたが、予選さえうまくいってれば...というところです。早くも次回がシーズン最終戦です。最後は2台揃って表彰台でシーズンを締めくくれるよう頑張ります。今回もたくさんのご声援をありがとうございました」

牧野 任祐 選手:

「今日はポイント獲得圏内まで順位を上げられましたが、さらに上位を狙えたと思っているだけに残念です。私たちの速い部分と遅い部分は明確に分かれていて、特に遅い面に関しては、そこが遅ければなかなかオーバーテイクできない状況に陥るため、今回は厳しいレース展開になりました。今シーズンも残すところ最終戦のみです。次回こそは、シンプルに、そして強く、優勝したいと思っています」

大湯 都史樹 選手:

「ここまで『自分のレースができてい』と言えるレースがなく、昨日の第5戦もいい部分を全く出せませんでした。正直、心が折れそうでしたが、地元から応援に来てくださった方々やスポンサーの方々、結果が悪い時も気にかけてくださりました。応援してくれたファンの皆さんの気持ちが私を支え、後押ししてくれました。今日のレースで、ようやく自分らしい、本当によい戦いができました。昨日までの長い苦しみはうまく言葉にできませんし、今の気持ちも言い表せません。皆さんの期待に応えることができ、本当によかった。最終戦もこのようないいレースをお見せできるよう頑張ります」

以上

※ 次戦(第7戦・最終戦)は、12月20日(日)に富士スピードウェイ(静岡県駿東郡小山町)で行われます。